175

6705

當
座京遊里
西来居大人判
南窓悦山
十六、
浄の名の山とよまれて
祇園町
いよゝゝのにきはひ女
永楽堂繁行
いろは女の情の闇の
脱ふてしてうきよの
波のよする浮京
呉竹三宜
いくてハ祇園豆腐も
およそしふ羽二重まんの
おそらひ女ろ肌

おれしゝを
西来居
朱竈遊よまされつむ日れ
ちまさるの一夜妻て
そひ寝して
けり

十五、
大ひえやこゝ布のこやつ乃
またこゝ不目よりうくゝ乃
志らの舟人
随日園本蔭

十三

みしまの
青き角も
おなじ竹の
根ハ御かどと
なりぬらん

名古屋
竜廼屋

十四

わかの門を柳みどりく
そのなかの糸しきをうさる
すもちそあれ

南盛子春亭

東海堂濱松改
翠葉亭
千俊

十三夜
いとしき
柳の髪ハ
根迄きよい
あきし紫乃
夜そ
惜まれ

十五夜
水鳥ハ
うき草
なくまてに
ふる雨のあしよ
峰ふきさるの
川泥

永樂堂
繁行

十三矣
日光
亀文閣

十五矣
曽奈倍迩之
琴柱耳今宵
迩加波四天
布多都乃星
哉波那礼邪
流良牟
包嬉園廣

十四番
誰宿の梅かふらく清みまく
匂ひくる香のみなれし戸出
磯荒女

十三番
うし佐成我
鳥の法音を
とめかり
山深く藏
ゆふ暮の
また
西来居

十三臭
なゐめくは
まゐ咲えるの
ましろきあきも
柳も風を
ふくむへてあつさ

名古屋
弄扇舘
秋近

十三臭
あきれ夕な
露のきり
めく夜
の床を
何ゆ待し
秋の
ねふき
ゑゞ
ら舞

江卅信楽
槻廼屋
弦彦

十三夜
待宵の
くもやはれたる
後の月
表なれ
待つうけり
美濃岐阜
重六改
檀柯園
滋麿

十三夜
筆をおく
香のかほり
井の葉影
友なつかしき
ちゝるの宿
水滸亭
菊雄

十六
婦るとしも
なきさまるよ
世ちちとねく
中く神をも
くねるにに
よしと本
薫亭舎風

十五
おかきこ手の侍
うまりまうけて
ちらくえ候
寄ふり志ち候
其の望陽
堂
宝堂

十三
柳月窓
綱女

十二
猿遊閑仲貫

十二
よろ代の
迎栄子
春道

十三
花實園
遠成

五老峯隠栖
こゝろある
火串のきえし
鹿の爪

竜鱗舎
松蔭
のそき

我宿の
軒の菖蒲の
甲市川
黄蝶菴
花遊

星々子
梅明

丗八
たのしきはこれ
ゐまりのちも
むくらしの
なよまくら
桜おもての出

三ノ笠松
半雪楼

丗九
いそうり
しやうよれん
乘らのおるゝ
耳のきえゝ
ありて事

梅樹園
花芳

十三
むつましきまで
ゆきあしたちよれ
第八そてもあ
かなきりけり
紀伊新宮
這出蘶人

十三良
あさの川さゝら
なみのたちしけく
河ふねも花の
七日あかりけて
文清舎沖澄

十三、あふ深しの
赤城の洞れ
志られても
かみちの橋を
かけ神よらむ
日光
早梅舎一芳

十五、あはれなる
志ら侍
とりしふ、
よりを申ふ
唐や羊の
ゆきて
くるしき
西雲塘
張弓

三ノ小谷合
化霧館
立住

十五、入あの鐘を
ちらしてさそふ
花をとやかぬる
まの夕風

十三 水上ハハしらきり風ふ
ゆふまちふ黒原
まく渡る
山川

四時園
楽多

主
ゆふぐちの曲
ちる
ぬぐさて
かた袖ハ
あ山の雪の
入日さし

南窓
悦山

圭矣
なかあさつ
ゐし夷
こゝろすり
ひきさく
そま侍
その山陵
すみちまの

日光
鳳鳴閣

雀遊子春長

尾州名古屋
西凨金浦志保
数寄可磯尓婦利年久伊毛我多
伊麻伊乃久之尓不宇奈春由布
太知乃久毋

十二
信楽
杜若屋清良

十三
黄鳥菴
梅好

山岸

中

山岸

山家